

【平成17年度専修学校社会人キャリアアップ教育推進事業】

事業名	農と食を結ぶアグリフードコーディネイターの育成・開発推進事業		
学校法人名	社団法人日本国民高等学校協会		
学校名	日本農業実践学園		
代表者	理事長 鈴木昭雄	担当・連絡先	茨城県水戸市内原町1496 029-259-2002学園長加藤達人

<事業の概要>

若年層・中年離職者の農業・食品関連分野における就業の安定化をはかるために、生産から加工・流通・消費にいたる専門的な知識・技能を修得する必要がある。このため農業・農産加工の体験や直販システム・消費者ニーズ・販売情報など教育システムの開発と実証推進を目的とした。

事業は食農教育研究委員会（3回）のもとに各委員が参画・主導する企画部会、農業教育、食品流通、アグリフード、食育部会を各3回実施した。また協力校・鯉淵学園と二葉栄養専門学校と連携し、体験学習・アグリフードセミナーなどを実施した。

食品・栄養と食育指導については鎌倉女子大学との共同研究、児童・食品栄養専攻学生および教職員への食農体験研修（3回）や味覚食教育（3回）などの実証授業を行った。

さらに教育プログラムのニーズを把握するために、食品栄養専攻卒業生（3校）、食生活改善推進員など（3地域）の意向調査をおこなった。

<事業の成果>

- ① 教職員の農業体験研修（1泊2日17時間）は体験・学習の関係の理解を深め、総合的な学習の時間の拡充に資した。さらに重点的研修と教育現場を支援する協力体制が必要である。
- ② 武蔵野市小学校のセカンドスクール制\*において教育系大学生の指導員の体験・意見を調査した。事前研修の充実が課題であり、教育課程専攻生のインターンシップ・教育実習の位置付けが重要となる。（\*5年生7泊8日、自然・農村（および食）体験学習）
- ③ アグリフードセミナーは農業・農産加工・食材・調理・味覚食文化および直販を包括する一貫研修（1泊2日17時間）の開発・実証であり、食物栄養専攻学生・栄養士・PTA関係者を対象とした。開発中のカリキュラムの組み合わせ実証から、さらに2～3回の継続研修が必要とされる。特に事前の味覚教室をセットしたセミナーでは、①食材・食べ物を起点とするプレゼンテーションの有効性が検証され、認定証発行は今後の動機付けとなる。  
短期研修コース(40～50時間)と食農専修コース(1年～2年)設置が検討される。
- ④ 食育研究会は「総合的な学習の時間」「家庭科教育の現況と課題」「調理科学の応用」「食行動の心理」の各観点から食育方法論を研究した。人間行動の主体性からの理論構築と実証研究の両面からの解明が必要であり、特に食農教育への実証・応用が期待される。

- ⑤ 卒業後 2～6 年のアンケート調査から食育情報・指導論、健康・栄養・食品安全性など新しい専門的研修のニーズ・要望が確認され、生涯を通ずる専門教育・社会教育のニーズが強い。また福井・滋賀県 2 市の食生活改善推進員(370 名)の活動意向調査からも同様な特長が見られ、生活と活動体験を基盤とした能力再開発の行政と専修学校の連携が課題である。
- ⑥ 今回のプロジェクトを通じてコーディネーターの役割と研修開発の課題が検証され、教材・施設や研修体制などの改善点が提起された。「食と農を結ぶ教育システム」と「地域社会のニーズを開発する専門教育」の推進方向を切り拓くことができた。